



須磨寺元旦

# 青葉の笛だより

## 第39号

令和4年 正月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

### ご挨拶

令和三年も過ぎ去ろうとしています。前回、ワクチン接種や葉の開発などでコロナ騒ぎも落ち着き、来年春にはお四国参りも出来るようになるだろう、などと述べましたが、また感染力の強い「オミクロン」という名の変異株が出て、予断を許さない状況になってしまいました。

ネットでは、変異するたびに毒性は弱まるので、そう心配することはない、などとも言われていますが、新聞やテレビでは大変なことになるように伝えられています。これからどうなるのかはわかりませんが、今暫くはこれまでの生活が続けた方が良さそうです。

さて、令和四年は壬寅の年になります。令和三年は「聖徳太子一千四百年御遠忌」の年で、聖徳太子に縁のあるお寺では、一年を通して聖徳太子慶讃の大きな法要や行事が執り行われました。

その聖徳太子が難敵物部守屋の討伐のために自ら四天王を刻み、勝てばお寺を建立すると約束されました。そして河内の国の稲村城へ向かう途中の山中で、戦勝祈願のためにお祈りされると、天空遙に四天王の中の北方を守護する毘沙門天王がご出現され、太子に必勝の秘法を授

けられました。そのご出現された時が寅の年、寅の日、寅の刻(明け方3時〜5時)でした。太子はそこご加護で勝利されたので、自ら毘沙門様のご尊像を刻み伽藍を創建、信ずべし貴ぶべき山「信貴山」と名付けられました。

四天王寺も信貴山も聖徳太子によって建立されたお寺で、私は一年だけでしたが信貴山で修行させていただきました。そのご縁で昭和六十一年の寅年に厳修された幾つかの法要に出仕させていただきましたが、「十二年に一度の寅年の寅の月(二月)にしか執り行われない結縁灌頂は、無尽蔵の福をお授け下さる毘沙門様との縁を結ぶ、大変尊い機会だと思っています。沢山の「寅の福」をいただきますよ」と、信貴山の管長さんに成り代わりお知らせいたします。

須磨寺にも本堂内正面にある宮殿の向かって左の扉の中と、納経所の屋上のお堂の中に毘沙門様が祀られています。どうぞお参りして、毘沙門様の福を頂いて下さい。

この夏までは優勝確実と思われた阪神タイガースは、ヤクルトを飲まなかったからか元気がなく、いつの間にか首位を明け渡し、私は意味がないと思うシリーズでも、負け越して終わった巨人に負けて終わってしまいました。このコロナで仕方なく家で観戦しても、メガホン振り回して応援を続ける大正十二年生まれのトラ吉お嬢様のためにも、今年は信貴山にお参りし、勝利の美茶を飲ませてやりたいと思っています。

大本山須磨寺 貫主

小池 弘三

合掌

# 十三佛に見守られて(15)

## 阿闍如来

摩耶山天上寺貫主 伊藤 浄厳

阿闍如来(仏)は、梵語のアクシヨー  
ブヤ(阿闍婆)の音写語で、揺るぎない、  
動じない等の意味で、漢訳では無動仏・  
不動仏などと訳されています。また、阿  
闍には無瞋恚の意を含み、あらゆる誘惑  
に打ち勝ち、決して恨みや怒りを抱かな  
いという誓願を立てた仏として無瞋恚如  
来ともいわれています。

『阿闍仏国経』によると、遙か東方に  
大目如来が統治する妙喜国がありまし  
た。その国に一人の比丘がいて、悟りを  
成就するまではいかなることがあっても  
絶対に怒らない(無瞋恚)ことを誓願し  
たのです。そして、不退転の決意をもつ  
て、久修練行ののち、終には開悟徹底(成  
道)し、阿闍如来となり、東方妙喜国に  
仏国土(浄土)を建立して、現に衆生済  
度のため、説法をされているのです。

密教においては、この阿闍如来は、殊  
に揺るぎない菩提心(悟りを求める心)  
の徳を象徴する仏として尊崇されてい



阿闍如来像

す。言えば、菩提心がこの上なく堅固で、  
修行を妨げるいかなる煩惱、懊惱(わうのう)に對し  
ても絶対に動じることのない尊格なので  
あります。さらに、密教では西方極樂淨  
土の阿彌陀如来に對して、淨瑠璃淨土の  
藥師如来と共に、東方の妙喜淨土の阿闍  
如来として知られています(時には阿闍  
は藥師と団体と見做されています)。

ところで、十三仏信仰は、人の死後、  
追善供養(追福菩提)のための仏事(法事)  
として日本で成立し、日本のみで奉修さ  
れています。即ち日本独自の信仰形態な  
のです。この信仰は鎌倉時代には広く世  
間に認知されるようになり、室町時代に  
は全国的に定着したといわれています。

だが、この十三仏信仰は、十三仏の功  
徳やご利益だけによって成立したのでは  
なく、中国における道教的な十王思想が  
根拠となつているのであります。

ちなみに、『十王經』には、十三仏の  
初めの十仏(不動から阿彌陀まで)が十  
王の本地仏として説かれています。(十  
王とは冥土にあつて、亡者を裁く十人の  
王。本地仏とは本体としての仏・菩薩な  
ど。仮に神などに変身して現れた垂迹身  
に對していう。垂迹身とは仏・菩薩など  
が衆生を救うために、仮のすがたに變じ  
て身を現すこと。殊に神仏習合思想では、  
仮に神となつて出現すること。)

参考までに、『弘法大師逆修日記事』  
によって、忌日、垂迹としての十王と、  
本地としての十三仏を記してみます。こ  
の書は十三仏信仰の初期の文献であ  
ります。勿論、弘法大師御在世の折に  
は、十王信仰も十三仏信仰もまだ成立し  
ていません。従つて、この書は弘法大師  
に仮託されているの言うまでもありま  
せん。忌日・十王(垂迹)・仏尊(本地)  
の順に略記してみます。

### 忌日 垂迹 本地

- |              |       |
|--------------|-------|
| ① 初七日 泰皇(広)王 | 不動明王  |
| ② 二七日 初江王    | 釈迦如来  |
| ③ 三七日 宋帝王    | 文殊菩薩  |
| ④ 四七日 五(伍)官王 | 普賢菩薩  |
| ⑤ 五七日 閻魔王    | 地藏菩薩  |
| ⑥ 六七日 変成王    | 弥勒菩薩  |
| ⑦ 七七日 泰(太)山王 | 藥師如来  |
| ⑧ 百ケ日 平等王    | 觀音菩薩  |
| ⑨ 一周忌 都帝(市)王 | 勢至菩薩  |
| ⑩ 三回忌 五道転輪王  | 阿彌陀如来 |
| ⑪ 七回忌        | 阿闍如来  |
| ⑫ 十三回忌       | 大日如来  |
| ⑬ 三十三回忌      | 虚空蔵菩薩 |

この中で、閻魔王と五道転輪王とはイ  
ンド起源であるが、それ以外の王の由来、  
典拠は不明であります。恐らく、十王思  
想は中国の唐代末期頃に、道教の泰山信  
仰や冥府信仰などと、仏教の閻魔説が結  
合して成立したと考えられています。

さて、前記の十王は、冥界にいて、そ  
れぞれ忿怒の形相をあらわに、裁判官と  
して死者の生前の善悪業を裁くのです。

それによって、死者の来世の住所が定ま  
るのであります。

だが、この十王の役目は死者の罪業を  
暴き出して地獄へ陥れるのではなく、  
本地仏の慈悲の心をもって、己が罪過を  
反省させ仏道に精進すべく誘導するのが  
本心なのです。

ところで、前表には、三回忌まではそ  
れぞれの忌日に十王が配されています  
が、七回忌・十三回忌・三十三回忌には  
冥府の王が明記されていません。

なぜでしょう。思うに七回忌ともなれ  
ば、初七日から三回忌の仏さまによって、  
仏道に精進し、死者の余罪もほとんど尽  
きている筈であります。それ故に、本地  
仏が態々忿怒の垂迹に変身する必要もな  
くなり、阿闍・大日・虚空蔵の三尊は直  
ちに仏身を現じて教化引導されるのだと  
思われます(なお、『十三仏鈔』や『無  
縁慈悲集』など後の文献には、阿闍・大  
日・虚空蔵の垂迹が配当されていますが、  
特に必要もないので省略します)。

以上の略説によっても判るごとく、阿  
闍如来を守り本尊とする七回忌は、死者  
の得脱(とくだつ)にとって特に重要な法事なのであ  
ります。

なお、初七日の不動明王と、七回忌・  
十三回忌・三十三回忌の阿闍・大日・虚  
空蔵の四尊は、密教独自の尊格で、殊のほか  
深秘の意味を蔵しているのです。

かくて、死者の魂は、縁ある方々の追  
善供養の功德によって、次の十三回忌の  
大日如来のもとに導かれるのであります。

## 除夜の鐘と 千巻心経法要のお知らせ

令和三年十二月三十一日、午後十一時四十五分より例年通り、参拝者の皆様に除夜の鐘を撞いていただきます。先着百八名の方々には、記念品の特別絵馬を授与します。百八番目までの整理券は、午後九時半に鐘撞き堂前にて配布します。

百九番目以降の方も、午前二時までは自由に鐘を撞いていただくことができます。

大晦日の夜当山境内にて、清らかな鐘の音と共に旧年中の煩惱を払い、清々しい気持ちで新しい年をお迎え下さい。

また、同時刻より護摩堂におきまして、千巻心経法要を執り行います。



当山管長導師のもと、旧年の厄を払い、新たな気持ちで新年を迎えられるよう、太鼓の音に合わせて般若心経を唱えます。

新しい年を迎えるに当たって、旧年にも増して皆で助け合い、仏様の智慧をいただき、明るい気持ちで過ごしていけるよう共にご祈念したいと思ひます。

## 修正会のお知らせ

令和四年一月一日午後二時より、当山本堂におきまして、新春開運修正会（大般若転読法要）を執り行います。

導師が経題を唱えた後に、職衆各々が経本を展開する「転読」という特殊な読みかたで、総数六百巻に及ぶ長大なお経「大般若経」を読誦します。その功力をもって皆様の家内安全、厄除開運から、国家安穩、世界平和に至るまで、一年間の無事を祈念します。

祈願札を申し込まれた方には当日本堂にお入りいただき、導師の加持した経本で身体を加持いたします。

新しい一年のご多幸を、皆様と共にご祈念したいと思います。



### 授与品

五千元 祈願札（木札）・破魔矢・

腕輪念珠

三千元 祈願札（紙札）・腕輪念珠

### 申込期限

一月一日正午まで

須磨寺寺務所にて承ります。

## 須磨寺本坊 正月三が日 特別護摩祈祷のお知らせ

例年正月三が日は、護摩堂にて特別護摩祈祷を厳修しております。

令和四年度は、三が日の間の護摩祈祷札のお申し込みを頂いた方限定で、祈祷札と合わせて当年の守り本尊（虚空蔵菩薩）の梵字入り散華を授与いたします。

ご希望の方は、「正月三が日特別護摩祈祷申し込み用紙」にてお申し込み下さい。

受付での直接のお申し込みは、令和4年1月3日（日）午後2時の座までお受け出来ます。



また、コロナウイルス感染の恐れのある状況下での初詣に對して、不安をお持ちの方もおいでのことと推察いたします。そこで、郵送でのお申し込みにも対応させて頂きましますので、「新春特別護摩祈祷郵送申し込み用紙」をご確認のうえ、お申し込み下さい。

尚、郵送でのお申し込みは令和2年12月31日（金）必着にて締め切りとさせて頂きましますので、ご了承下さい。

ご不明な点は、本坊寺務所までお問い合わせ下さい。

「正月三が日特別護摩祈祷受付係」

電話 〇七八ー七三二ー〇四一六（代）

## 蓮生院 一月から三月までの行事予定

## 写経・瞑想体験会

お寺で写経と瞑想の体験会を致します。気軽にできる写経・瞑想です。初めての方もご参加いただけます。疲れた心を癒しにお越しください。  
**(写経のみ、瞑想のみの参加も可能です。足を組みやすい服装でお越しください)**

日時..

一月 八日(土)・二十三日(日)

二月十九日(土)・二十七日(日)

三月十二日(土)・二十七日(日)

写経会 十四時〜十五時半

瞑想会 十六時〜十七時半

(受付は三十分前から)

場所..蓮生院本堂

参加費..写経五百円・瞑想会千円

## 護摩行

毎月、二十一日十四時から厄除け大師堂で、二十八日十四時から蓮生院本堂で護摩を致します。お参りは自由なので、護摩行中はご自由にお入りください。

**写経・瞑想体験会は事前申し込み制です。**

発熱、咳、下痢、頭痛、息苦しさなどありましたら、参加はご遠慮下さい。

**マスク着用をお願いします。**

当日お昼までに蓮生院の事務所にお申込みいただくか、お電話でお申し込みください。

諸事情により取りやめになることがあります。

蓮生院電話番号 ○七八ー七三一ー二三一一

## 櫻壽院・長唄・三味線教室

邦楽に触れ日本の心を感じて  
**心豊かになれる長唄を始めませんか?**

「長唄」と聞くとあまり馴染みがないかと思いますが『勸進帳』や『連獅子』などの言葉を一度は聞いたことあるという方は多いのではないかと思います。これらは歌舞伎の演目で、長唄はその伴奏音楽として成立した三味線音楽です。そして、長い歴史の中で日本の様々なジャンルの音楽を取り入れ歌舞伎と共に発展。明治以降は歌舞伎の伴奏だけでなく純音楽として全国に普及し親しまれてきました。大正・昭和の時代には日本の心を知り、礼義作法を学べると子どもの習い事でも人気があったようです。

櫻壽院ではその華やかな伝統音楽に触れ、邦楽に親しんでもらえるように長唄・三味線教室を開催しております。講師には東京藝術大学邦楽科卒の邦楽家・東音松浦麻矢先生にお願いし、月に2回マンツーマンの個人レッスンを行っております。東音松浦先生は関西に教室を持たれ、京都の春の風物詩『都をどり』などにも出演される現役のブ口の長唄唄方です。初心者の方や子どもでも、丁寧に指導して下さり、あますところなく長唄の魅力を十分感じることが出来ます。

ご興味のある方はまずは見学されるだけでも楽しいですので、一度、ご連絡くださいませ。

矢野と  
 麻生と  
 松浦先生と  
 音先ひ

長唄は子どもから大人の方まで年齢に関係なく楽しめる音楽です。

また歌詞は大変興味深く、日本語や表現の素晴らしさに触れることができ、所作や立ち振る舞いを学ぶことができます。ぜひ伝統音楽・長唄を体験してみてください。

問合せ

須磨寺 櫻壽院 長唄・三味線教室

1 月 2 回

大人..7,000 円 小中学生..3,500 円

基本..日曜午後〜\*都合の良い日時を相談して決めております

問合せ先 櫻壽院 ○七八ー七三一ー〇九一八



お寺で学ぶ

## 周活知恵袋

須磨寺派昭和寺住職  
中山 戒仁

## 『生前整理』と『遺品整理』のお作法

## ● 心身を軽くにする断捨離

最近になって「断捨離」がブームになっています。「今あるものを整理して身軽な生活をする」と口にするのは簡単なのですが実践するのは意外と大変です。「捨てられない」「分別や処分が大変」「高い所や重い荷物の整理ができない」など色々な課題が山積で断念する方が少なくありません。私もその一人でした。そこで業者さんに依頼して家内の整理を行いました。いわゆる「生前整理」という「断捨離」を実行しました。その理由は費用をかけて整理するとリバウンドがしにくく真剣に取り組み、また買取・リユース（再利用）と愛用してきたものを捨てるだけでなく新たな利用がされることで罪悪感なく断捨離が出来るというメリットがあります。家の中やクローゼット・タンス・引出・押入れが空いてくるとなぜか心が軽くなるというかスッカリしましたし、余分なものを買わなくなってきました。

## ● 「遺品整理」って実は大変

私が断捨離・生前整理を行った理由は、遺品整理の現場に立会い、遺品供養や孤独死の現場で子供をさせて頂く中で色々な現実と直面し、「ご遺族や後見人・作業に従事されている方々にお話をお聞きしたからです。いくつか挙げると

- ① 量が多すぎて対応できない
- ② 片付けをする時間が取れない
- ③ 思い出の品も多く処分できない
- ④ 高齢で身体的に難しい
- ⑤ 施設や賃貸物件の退去期限が短い等々ということでした。具体的には家財

の分別・大型の家具・家電の処分や取外し、高所の収納の整理、庭や倉庫等の屋外の片付けが大変だということでした。また、介護施設や公営住宅等の退去期限も場合によると1週間以内というのも少なくないようです。また賃貸物件等の空家賃も意外と負担になったとのことでした。介護や看病そして葬儀と心身の疲労が癒えない中での葬儀の段取りや挨拶回り、諸手続きに忙殺される中で家財等の整理はほぼ不可能でしょうし、「ご遺族が高齢、また仕事・家事・育児などがあればなおさらのことでしょう。」

ご自身の生活環境やご家族の状況を考え、少しずつ不要な家財を整理して身軽にしつつ、本当に欲しいものを買って充実した楽しい生活を送ることが元気で長生きできる秘訣だと思えます。

## ● 上手な「遺品整理」と

## 注意点

家財等の整理をご自身ですべて出来る方は関係ないかも知れませんが、費用対効果を考えると業者さんをお願いする方のメリットが大きいに思えます。というのも、スポットだけをお願いを聞いて下さる業者さんもあるからです。例えば「大型の家財や家電だけ」「御佛壇・神棚等の祭祀具だけ」というようにして自分たちの出来ることは自分たちで行い、トータルでコストと労力をカットすることが出来ます。また、誰も使用しない家財等の買取りの査定をお願いして買い取ってもらうことで処分費用を少しでも賄うことも出来ます。現に家財の買取りの価格が処分費用を上回った方も少なくありません。また、処分だけでなく、リサイクルやリユースに取り組まれている業者さんであれば処分費用を抑えることが出来る場合もあります。そもそも忘れてはいけないうのは「物を捨てる時にもお金がかかる（言うまでもないですが、買う時も）」ということです。

それからあと二つ気になることをお伝えしたいと思います。「業者による不法投棄」と「相続の単純承認」です。まず、「業者による不法投棄」についてです。遺品整理を依頼した業者が不法投棄をした場合、投棄された廃棄物の所有者も廃棄物処理法等の法律により罰せられる可能性があることです。留意すべきことは、廃棄物の処分には決められた相応の処分費が必ず必要だということです。根拠なく他社よりも著しく安価な場合等には相見積もりや業者の再検討が必要だと思います。気を付けておかないと民事・刑事・行政等の処分や責任、費用負担を余儀なくされる可能性があることを知っておいて下さい。

次に「相続の単純承認」です。被相続人（遺品の所有者）の生活状況や資産状況を把握できていない状態で被相続人の遺産の処分に該当する行為をすると「相続の単純承認」をしたことになり、相続が開始してしまう可能性があります。仮に被相続人が多額の負債を負っていた場合等に良かったとした行為で相続人が多額の負債を相続する可能性があります。長年行き来のない身内や親族が被相続人で自身が相続人に該当する場合の遺品整理を始めとする相続や死後事務を行う場合は弁護士等の専門家に相談

した後に対応に当たられることをお勧めします。

## ● 遺品整理業者の選び方

それでは、具体的にどのような業者さんをお願いすればいいのでしょうか。私の経験からのチェックポイントを挙げたいと思います。

- ① 迅速に対応してくれる
- ② 事前見積と面談での説明がある
- ③ 家財等の買取査定・提案がある
- ④ 遺品整理時に留意すべき家財・書類等のアドバイスがある
- ⑤ お佛壇・神棚等の祭祀具等の取り扱いについて説明がある

以上の5点です。①は先述の通りで状況によっては退去等の期限の都合で時間があまりないことがあります。きちんとした業者さんはそのような事情を分かっておられるはずですので対応して頂けるはずです。また、夜間等の時間外や特殊な事情がない限りは加算料金等も請求されないので、すからこの点も留意しておいて下さい。②は言うまでもないですが、現地確認費用の見積・面談での説明はあつて当然です。建物の状況・部屋数・荷物の量などの説明だけでの大雑把な概算での契約はあり得ませんし、追加の費用請求等の可能性もありますから他の業者さんを探したほうがいいかと思えます。③はきちんとした業者さんは、依頼者さんの経済的負担の軽減や遺品を大切にするという想いで仕事をされています。「混ぜればごみ、分ければ資源」というように使えるものには新たな命を吹き込む、これは故人の供養にもつながると思いますし、今というSDGSの理念にも適うことです。④は重要です。疎遠であったり、同居していない両親や兄弟姉妹、親族の相続人になった場合等に被相続人の生活

状況や経済状況の把握は相続手続きにおいて重要になってきます。例えば、金融機関（預貯金・株・貸金庫・クレジットカード・借入）等の取引履歴に関する書類、生命保険・公的な保険・年金通販の購入通知・・・と挙げればきりがありませんが、相続手続きに必要な証書・書類・印鑑・カード等の回収は重要です。それにペーパーレス化が進む昨今、スマートフォン・携帯電話・タブレット・パソコン等の有無や回収も必須です。業者さんの知識・経験則から必要と思われる書類等を仕分けして渡してくれるはずです。故人の情報で依頼者の知っている情報を作業前に伝えておくことも適切な作業を進めるために大切なことです。⑤お佛壇や神棚等の祭祀具は故人だけでなく、依頼者を含めて多くの方にとって大切な護るべきものでありルーツでもあります。遺品整理に当たりどのような対応すべきか相談に乗ってくれるはずです。粗末にならないように、安心して次に繋げられる様に菩提寺等と相談されることも大切なことと思います。

## ● 「遺品整理」の功德

遺品整理はただのごみの整理ではありません。遺品は故人の生きてきた証であり家族の足跡でもあります。遺品整理や形見分けは故人を五感で感じられる最後のひと時です。遺品を整理しながら故人の旅立ちを心身で受け止めてきちんと今生のお別れをし、遺品に対する故人の遺念を供養することで、遺された方々が前を向いて倅に生きていくための新しいスタートを切るための大切なつとめです。遺された人が倅になることが最善の供養だと思えます。『逝く者として、遺される者』として家財の整理について一度考えてみてください。

# 全真言宗青年教師 布教研修会を終えて

私は、今年の一月から須磨寺にお世話になっております、淡路島の法導寺というお寺から参りました、竹原正基です。まだまだ、二七歳の若輩者ではございますが、少しでも多くのことを勉強させていただき、また須磨寺に少しでも恩返しができるように勤めさせていただきます。よろしくお願い致します。



十一月八日、九日にお大師さんがお生まれになり過ぎされた、善通寺で全真言宗青年教師布教研修会に参加させて頂きました。そこで各山各派から来られた同じ志を持つ素敵な方々とご一緒させていただき、本堂にありがたいご縁を頂戴しました。

私は、須磨寺に来るまで、一般の会社でサラリーマンをしていました。サラリーマンの時の自分と、お坊さんになった時の自分、この対象的な二つの自分から感じて思ったことをお話させて頂きました。お坊さんは多くの人に見られます。自分の知らない所でも見られていることもあります。だから、私たちお坊さんは誰に見られても恥ずかしくないように自信をもって、常に誰かが見えているかもしれないと襟を正し、謙虚に、そして仏様を一生懸命に拜んで、祈りを重ねて、御参詣して下さる方、檀家さん、信者さんとを繋げられる存在になれるように精進していきたいです。

まだまだ、勉強不足で至らなくご迷惑をお掛けすることも多くあるかとは思いますが、一生懸命な姿と笑顔の素敵なそんなお坊さんになりたいです。

合掌

## 須磨寺の歴史〈二十八〉

― 古絵図で見る須磨寺

須磨寺には多くの文化財が保存されていますが、その中で須磨寺を描いた絵画で代表的なものとして、「往古伽藍之図」と「中古伽藍之図」の二つが現存しています。今回はこの二つ図を見て昔の須磨寺の姿を見ていきたいと思っています。

まずは往古伽藍之図ですが、この図は平安初期に活躍した大和絵師の巨勢金岡筆と伝えられています。実際には安土桃山・江戸時代初期の作ではないかと推測され、一般的には「須磨寺参詣曼荼羅」と呼ばれています。

そして「須磨寺参詣曼荼羅」で須磨寺はどう描かれているのかを見てみると、中門・大門があり、その奥に巨大な本堂が鎮座していて、その左右に鐘楼や三重塔・大師堂などが描かれています。三重塔が本堂に向かって右側に描かれていて、現在とは違う場所にあります。

また、画面中央を見てみると貴族らしい男



須磨寺参詣曼荼羅



中古伽藍之図

性が桜を眺めています。この男性は光源氏で、眺めている桜は「若木の桜」であり、この桜は現在枯れてしまいましたが、桜壽院の北側にありました。次に中古伽藍之図です。この図はいつ頃制作されたかは分かりませんが、往古伽藍之図よりも写實的に描かれているのが特徴です。

そしてこの図を見て驚くのは、今の須磨寺の景色とは大分異なることです。現在は蓮生院がある場所には林があり、その中にお堂が一つあるだけで、現在正覚院がある場所を見ると、川が流れていて、建物はありません。そして現在は源平の庭と桜壽院がある場所は、表筋として、桜壽院・華嚴院・東林院・慈眼院・相之坊・東蔵坊が描かれていて、現在は書院・本坊があるところは裏筋と山側に分かれていて、裏筋には蓮生院・正覚院・梅本坊・安養坊が、山筋には不動院・大聖院が描かれています。

現在の須磨寺には三カ寺しか塔頭はないので、現在よりだいぶ多く、また江戸時代の資料には出てこない名前の塔頭があるので、江戸時代よりも以前の須磨寺の姿を今に伝えています。

以上、二つの古絵図を見ましたが、須磨寺は長い歴史を通して大きく姿を変えてきました。形あるものは変化していく。これからも須磨寺は、様々なご縁によって変わっていき続けるかもしれません。

## 仙師逍遙

隣家の白木蓮がすっかり開き切った夕間暮れ。ノックの音で玄関の戸を開けると、見事にスーツを着こなされた紳士が、サツと音のするような綺麗な挨拶をされた。

自己紹介に続いて突然の訪問を詫びられたのち、

「このお仏像は御手元にあるのでしょうか」と息つくまもなく広げられたのは、最近私が地元百貨店で催した展示会の作品集。開かれたページには手のひらくらいのお身

大の大黒天さま。材は屋久杉で左肩に担いだ袋が足元で大きく膨らみ、その袋の上にごやかに微笑みを持つて立られている。けれどその作品は展示会で既に売却済み

のものであったので、そうお伝えすると、「そうですか」

と、半ば予期されていたように肩を落とされた。その方のお名前を仮に佐藤さんと呼ばせていただく

佐藤さんは、少しの間を置いたあとに言いにくそうに

「同じものをすぐに彫って頂くと言うわけにはまいりませんか」と言われた。

長い仏師生活の中では、時々そういうご依頼があります。けれども、全く同じつもりで彫っても仕上がりはやはり微妙にどこかちがってきますから、そうお答えすると、「それでもお願いしたい」と言われる。

勿論彫ることに否やはないし、同じ材の屋久杉はまだ手元にある。問題は納期が一週間に足りないこと。ちょうどある寺院様の御本尊を手がけていて、私自身の手が塞がった状態をご説明するより先に、「ご無理を重々承知の上で何とかお願いできないでしょうか」

と、もう一度頭を下げられて、こんなお話をされた。

この仏さまの笑顔を持たせたいのは甥御さんで、その方は医師であること。甥御さんの湘さん（仮名）は大病院のご長男として生まれ医学の道に進み、将来を嘱望された医師になられたけれど、訳あって病院を継ぐことをせず、日本を離れて「国境なき医師団」に参加され、アジアの国々の危険な地域で、長く活動を続けておられるとか。

ところが、最近になってご自身が体調を崩され、一時帰国されて精密な検査を受けられた結果、手術も不可能な末期の脾臓癌と診断されたこと。

ご本人は日本で療養するか、このまま医療の現場に帰って死ぬまで医師を続けるか迷われて、叔父である佐藤さんの元に相談に來られたとき、たまたまそこにあった私の作品集の大黒天さまを見て、

「この笑顔が欲しい」と言われたこと。現在はある病院でアルバイトの診療をされていること、などを話された。

私はそのお話の半ばで殆ど承諾を決めていて、

「わかりました、期日は間に合わせます。但し、ご購入は作品の出来上がりをご覧の上で、お決めください」と言う私の言葉に、佐藤さんは何度もの礼を工房に残されて帰って行かれた。

木取りはその日のうち、翌日には粗彫りをスタート。期日通りに完成のお電話をすると、数時間で訪ねてこられて、一目で気に入られて、まるで時間を惜しむように大黒天さまの笑顔を大切な繭のように抱いて帰られた。

大黒天さまは幸運なことにとっても綺麗な屋久杉材で、私も心底嬉しくて箱書きとは別に、手元にあった便箋に筆で、「屋久杉 千年の樹齢を重ねた その美し

い木目に敵う技術は有りません。ただ この笑顔のいつまでも続くことを。ここに祈りつ。

笑顔こそ人の世の幸今日の梅

龍雲

と記して桐箱に入れた。

数日後に佐藤さんから、湘さんがとても喜ばれたと電話があり、その10日後、佐藤さんからの長いメールが届いた。湘さんはやはり医師として生涯を全うしたいと、医療の現場に帰って行かれたとか。

そして転送されたメールには

「笑顔と隣り合わせの当直室でした。千年も生きた屋久杉もさることながら、あれだけの笑顔を彫り出されている先生が、書いてくださった手紙と俳句を何度も読み返し、あの短い手紙の中に、人生が語られている。そんな気持ちにさせてもらいました。

私は医者も職人だと思っています。技術を磨いて最新の医療を施す、でも先生が言われるように、どんなに技術が最高でも、神の手を持つ医師にも敵わないもの、それは笑顔です。

日本を離れて長いから、日本語をうまく使いこなせなくて思いが伝わらないもどかしさが有りますが、ただ、大黒天さまと手紙を共に連れ、喜んで旅立つて行つたと山高先生にお伝えください。

関西空港にて 湘

この世で出会えた言葉はたからものです。その場で返信のメールを送りました。「かたちをつくり出すことは、経験さえあればさほど困難では有りません。むしろ楽しむことさえ可能です。けれども、この世に生まれたかたちに息吹を通してくださるのは制作者では無く、かたちの前に立たれた方なのだ、分かつたつもりでいたことを本当にそうなのだ教えて頂いた気がします。

一輪の梅の花は、きっと自分のために力を込めて蕾を解いているのでしょうか。けれど、その一輪の花が人の目に映すものは、季節と太陽と大地とこの世の自分を取り巻く全ての空気。そして命の愛しさ。今生きていることの素晴らしさ。

それに気づくことを感じることに、まだ見ぬ方の言葉と生き様に言葉にならぬ波動を感じます。

仏像を彫ること、自分にできることがある、その幸せを心の底から感じます。

ありがとうございました。 龍雲

私のメールが届いたかどうかは知りません。数ヶ月後に佐藤さんに湘さんから便りがあり、元気で医療を続けていること。体は少しずつ辛くなっているけれど、診察を終えて遙かな山に沈む大きな夕日を見ながら、ここにいることが自分にとって最良の選択だったと思うこと。

そして末尾に、机の上の大黒天さまはいつも微笑みを増しています。と記されていた湘さんのメールの詳細が届きました。

その翌々年の春。湘さんがタイの病院で亡くなられたと風の便りに聞いたのは、須磨寺の白木蓮がようやく白い翼を広げはじめた頃でした。

須磨寺大仏師 山高龍雲



# 令和4年 年間行事 予定表

# 令和4年 年忌数え年早見表

|                            |                              |           |
|----------------------------|------------------------------|-----------|
| 1月                         |                              |           |
| ■ 1日(元旦)14時                | 開運修正会(大般若転読)                 | 須磨寺本堂     |
| ■ 3ヶ日                      | 10・12・14時<br>正月特別護摩祈祷        | 本坊護摩堂     |
| ■ 8日                       | 11時半 薬師寺鬼追い式                 | 頼政薬師寺     |
| ■ 17日                      | 5時30分 大震災物故者慰霊法要             | 須磨寺本堂     |
|                            | 10時 大震災物故者慰霊法要               | 本坊客殿      |
| ■ 28日~2月3日                 | 5時15分<br>寒行(星祭護摩祈祷)          | 本坊護摩堂     |
| 2月                         |                              |           |
| ■ 3日                       | 10・14時 節分星祭護摩祈祷              | 本坊護摩堂     |
|                            | 15時 節分星祭祈祷                   | 蓮生院       |
|                            | 13時から16時 節分星祭祈祷              | 桜寿院       |
| ■ 12日                      | 15時 須磨寺先師忌土砂加持法要             | 本坊客殿      |
| 3月                         |                              |           |
| ■ 5日                       | 14時 敦盛祭                      | 須磨浦公園 敦盛塚 |
| ■ 9日                       | 14時 平敦盛・源平戦士追悼法要             | 須磨寺本堂     |
| ■ 11日                      | 14時30分 東日本大震災<br>自然災害物故者慰霊法要 |           |
| ■ 18日~24日                  | 彼岸会(特別護摩祈祷)                  |           |
| 4月                         |                              |           |
| ■ 2日                       | 13時 十三まいり                    |           |
| ■ 6日~8日                    | 花まつり 灌仏会                     | 甘茶お接待     |
| ■ 17日                      | 9・12・15時 青葉殿                 | 納骨供養祭     |
| ■ 25日                      | 14時 春季大祭 本尊慶讃法要              | 須磨寺本堂     |
| 6月                         |                              |           |
| ■ 15日                      | 10時 弘法大師降誕会                  | 本坊大師堂     |
| 7月                         |                              |           |
| ■ 29日                      | 子供寺子屋修行                      |           |
| 8月                         |                              |           |
| ■ 9日                       | 18時 四万六千日法要(みあかり観音)          |           |
| ■ 12日~15日                  | 盂蘭盆会                         |           |
| ■ 15日                      | 10時 盆大施餓鬼法要(本坊)              | 本坊客殿      |
| ■ 17日                      | 9・12・15時 青葉殿盂蘭盆会法要           | 青葉殿       |
| ■ 19日                      | 14時 盆大施餓鬼法要(桜寿院)             | 桜寿院本堂     |
| ■ 20日                      | 14時 盆大施餓鬼法要(蓮生院)             | 蓮生院本堂     |
| 9月                         |                              |           |
| ■ 20日~26日                  | 彼岸会(特別護摩祈祷)                  |           |
| 10月                        |                              |           |
| ■ 2日                       | シベリア戦没者慰霊祭                   | シベリア慰霊碑   |
| 11月                        |                              |           |
| ■ 23日(祝)11時                | 須磨の火祭り 柴燈護摩                  | 本坊        |
| 12月                        |                              |           |
| ■ 31日                      | 23時45分<br>千巻心経護摩法要           | 本坊護摩堂     |
|                            | 除夜の鐘                         | 鐘樓堂       |
|                            | (21時30分 除夜の鐘 整理券配布)          |           |
| ■ 毎月18日                    | 10時 写経会                      | 本坊客殿      |
| ■ 毎月20・21日                 |                              | お大師さん(縁日) |
| ■ 毎月3・8・13・18・20・21・23・28日 | 10時                          | 護摩祈祷      |

| とら             | うし             | ね              | いぬ              | とり                                    | さる             | ひつじ            | うま             | み              | たつ             | う              |                |
|----------------|----------------|----------------|-----------------|---------------------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 寅              | 丑              | 子              | 亥               | 戌                                     | 酉              | 申              | 未              | 午              | 巳              | 辰              | 卯              |
| 令和4年           | 令和3年           | 令和2年           | 令和元年            | 平成30年                                 | 平成29年          | 平成28年          | 平成27年          | 平成26年          | 平成25年          | 平成24年          | 平成23年          |
| 1<br>●<br>羅喉星  | 2<br>●<br>土曜星  | 3<br>●<br>水曜星  | 4<br>●<br>金曜星   | 5<br>○<br>日曜星                         | 6<br>●<br>火曜星  | 7<br>●<br>計都星  | 8<br>○<br>月曜星  | 9<br>○<br>木曜星  | 10<br>●<br>羅喉星 | 11<br>●<br>土曜星 | 12<br>●<br>水曜星 |
| 平成22年          | 平成21年          | 平成20年          | 平成19年           | 平成18年                                 | 平成17年          | 平成16年          | 平成15年          | 平成14年          | 平成13年          | 平成12年          | 平成11年          |
| 13<br>●<br>金曜星 | 14<br>○<br>日曜星 | 15<br>●<br>火曜星 | 16<br>●<br>計都星  | 17<br>○<br>月曜星                        | 18<br>○<br>木曜星 | 19<br>●<br>羅喉星 | 20<br>●<br>土曜星 | 21<br>●<br>水曜星 | 22<br>●<br>金曜星 | 23<br>○<br>日曜星 | 24<br>●<br>火曜星 |
| 平成10年          | 平成9年           | 平成8年           | 平成7年            | 平成6年                                  | 平成5年           | 平成4年           | 平成3年           | 平成2年           | 平成元年           | 昭和63年          | 昭和62年          |
| 25<br>●<br>計都星 | 26<br>○<br>月曜星 | 27<br>○<br>木曜星 | 28<br>●<br>羅喉星  | 29<br>●<br>土曜星                        | 30<br>●<br>水曜星 | 31<br>●<br>金曜星 | 32<br>○<br>日曜星 | 33<br>●<br>火曜星 | 34<br>●<br>計都星 | 35<br>○<br>月曜星 | 36<br>○<br>木曜星 |
| 昭和61年          | 昭和60年          | 昭和59年          | 昭和58年           | 昭和57年                                 | 昭和56年          | 昭和55年          | 昭和54年          | 昭和53年          | 昭和52年          | 昭和51年          | 昭和50年          |
| 37<br>●<br>羅喉星 | 38<br>●<br>土曜星 | 39<br>○<br>水曜星 | 40<br>●<br>金曜星  | 41<br>○<br>日曜星                        | 42<br>●<br>火曜星 | 43<br>●<br>計都星 | 44<br>○<br>月曜星 | 45<br>○<br>木曜星 | 46<br>●<br>羅喉星 | 47<br>●<br>土曜星 | 48<br>○<br>水曜星 |
| 昭和49年          | 昭和48年          | 昭和47年          | 昭和46年           | 昭和45年                                 | 昭和44年          | 昭和43年          | 昭和42年          | 昭和41年          | 昭和40年          | 昭和39年          | 昭和38年          |
| 49<br>●<br>金曜星 | 50<br>○<br>日曜星 | 51<br>●<br>火曜星 | 52<br>●<br>計都星  | 53<br>○<br>月曜星                        | 54<br>○<br>木曜星 | 55<br>●<br>羅喉星 | 56<br>●<br>土曜星 | 57<br>●<br>水曜星 | 58<br>●<br>金曜星 | 59<br>○<br>日曜星 | 60<br>●<br>火曜星 |
| 昭和37年          | 昭和36年          | 昭和35年          | 昭和34年           | 昭和33年                                 | 昭和32年          | 昭和31年          | 昭和30年          | 昭和29年          | 昭和28年          | 昭和27年          | 昭和26年          |
| 61<br>●<br>計都星 | 62<br>○<br>月曜星 | 63<br>○<br>木曜星 | 64<br>●<br>羅喉星  | 65<br>●<br>土曜星                        | 66<br>●<br>水曜星 | 67<br>●<br>金曜星 | 68<br>○<br>日曜星 | 69<br>●<br>火曜星 | 70<br>●<br>計都星 | 71<br>○<br>月曜星 | 72<br>○<br>木曜星 |
| 昭和25年          | 昭和24年          | 昭和23年          | 昭和22年           | 昭和21年                                 | 昭和20年          | 昭和19年          | 昭和18年          | 昭和17年          | 昭和16年          | 昭和15年          | 昭和14年          |
| 73<br>●<br>羅喉星 | 74<br>●<br>土曜星 | 75<br>○<br>水曜星 | 76<br>○<br>金曜星  | 77<br>○<br>日曜星                        | 78<br>●<br>火曜星 | 79<br>●<br>計都星 | 80<br>○<br>月曜星 | 81<br>○<br>木曜星 | 82<br>●<br>羅喉星 | 83<br>○<br>土曜星 | 84<br>○<br>水曜星 |
| 昭和13年          | 昭和12年          | 昭和11年          | 昭和10年           | 昭和9年                                  | 昭和8年           | 昭和7年           | 昭和6年           | 昭和5年           | 昭和4年           | 昭和3年           | 昭和2年           |
| 85<br>●<br>金曜星 | 86<br>○<br>日曜星 | 87<br>●<br>火曜星 | 88<br>●<br>計都星  | 89<br>○<br>月曜星                        | 90<br>○<br>木曜星 | 91<br>●<br>羅喉星 | 92<br>●<br>土曜星 | 93<br>●<br>水曜星 | 94<br>●<br>金曜星 | 95<br>○<br>日曜星 | 96<br>●<br>火曜星 |
| 昭和元年           | 大正14年          | 大正13年          | 大正12年           | 【大厄】 男性：41歳・42歳・43歳<br>女性：32歳・33歳・34歳 |                |                |                |                |                |                |                |
| 97<br>●<br>計都星 | 98<br>○<br>月曜星 | 99<br>○<br>木曜星 | 100<br>●<br>羅喉星 |                                       |                |                |                |                |                |                |                |

## 令和4年の当たり星の吉凶表

| ○                                                                                                | ○                                                                                                | ●                                                                                                | ●                                                                                                | ○                                                                                                | ●                                                                                                | ●                                                                                                | ●                                                                                                | ●                                                                                                | ●                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 大<br>木曜星                                                                                         | 大<br>月曜星                                                                                         | 大<br>計都星                                                                                         | 大<br>火曜星                                                                                         | 大<br>日曜星                                                                                         | 半<br>金曜星                                                                                         | 末<br>水曜星                                                                                         | 半<br>土曜星                                                                                         | 大<br>羅喉星                                                                                         | 九曜星                                            |
| この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。 | この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。 | この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。 | この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。 | この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。 | この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。 | この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。 | この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。 | この星にあたる人は、前年に引続いて、良い年となります。元気に努力して下さい。ただし、安進や油断、そしして悪事を為すことは、来る年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。 | 左記をよく心得て常に信仰と努力とを忘れてはなりません。<br>「九曜星は数え年早見表を参照」 |

## 令和4年 年忌一覽

|       |        |       |         |
|-------|--------|-------|---------|
| 一周忌   | 令和三年亡  | 二十五回忌 | 平成十年亡   |
| 三回忌   | 令和二年亡  | 二十七回忌 | 平成八年亡   |
| 七回忌   | 平成十八年亡 | 三十三回忌 | 平成二年亡   |
| 十三回忌  | 平成十二年亡 | 三十七回忌 | 昭和六十二年亡 |
| 十七回忌  | 平成十八年亡 | 五十回忌  | 昭和四十八年亡 |
| 二十三回忌 | 平成十二年亡 | 百回忌   | 大正十二年亡  |